

2023 第60号

千葉支部だより



J・A・C



令和5年1月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部
〒285-0837

佐倉市王子台6-38-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

北山の冬景色 (鹿苑禅寺)

水彩画 小菅 一弘

今年は安全登山のためのレベルアップ1年目！

千葉支部長 松田宏也

昨年のトピックスといえば、何と言っても「房総の山復興・山の日記念講演会」を千葉県の上岳3団体が団結し開催したことだ。8月11日という猛暑日、コロナ感染者が増えつつあるなか、市民会館に641名もの参加者を集めることができたことは画期的なことだった。

心配していた収支も黒字となり今後の房総の山の登山道整備にあてる予定である。整備に際しては支部の皆さんの協力をお願いしたい。

また、講演会の成功は千葉県でも登山に興味を持つ人は多いのだと改めて気づかされた機会でもあった。長いコロナ禍で生活が一変した結果、自然の中で過ごしたいという人が増えてきているが、以前と違うのはYouTubeで知識を得、SNSで知り合った仲間どうしで登る、もしくは高齢者が単独登山を始めるといったものだ。その結果、道迷い、転倒、体力と装備不足等が原因の遭難が年々増えている。

山岳会としてこの事態を見過ごすことはできない。初心者には安全に登るための基本を教えてもらいたいという潜在ニーズは結構多い。我々には安全登山を普及させる使命があるはずだ。このニーズを山岳会として真摯に受け止め実行するためにも、まずは支部内で初級登山教室を開催しテキストに沿った知識と技術を身につけてもらうことから始めたい。安全に山を

楽しみ、次の山行リーダーの育成をするためにも会員・会友の知識と技術のレベルアップを目指したい。現在、会員・会友を対象に4月から初級登山教室を準備中である。基本を学びたい方は奮って参加をしていただきたい。(詳細は支部メールで別途案内)なお、山岳3団体共同での一般向けの初級登山教室の開催も検討中である。

また、支部独自の会友制度を継続してきたが、この会友期限の見直しを図ることにしたい。そもそも会友とは支部活動を知ってもらい会員になるためのお試し期間であるが期限を設けていない。今回、役員会で議論を重ね今年の4月からは会友期限を2年間とすることを決定した。期限が来たら会員もしくは準会員を選択してもらうことになる。

見直しの詳細は、P2に掲載しているので参照されたい。

日本山岳会は登山が好きな者の集まりである。登山文化を享受し安全に楽しむことで個々の人生は豊かになる。仲間と助け合いながら、一生の山友を得ることは大きな喜びとなる。老若男女が山を語り、共に登り、記録に残していくことで山はもっと楽しくなる。千葉支部をもっと活性化させ、充実のクラブライフをおくるためにも安全登山の普及と若い仲間の入会促進に皆さんの力を是非とも借りたい。

[目次]

- ・会友の期限告知 p 2
- ・山行記録 p 3
 - 国師岳から北奥千丈岳、湿原が広がる田代山
- ・本部の指導者養成講習会に4名が参加 三田博 p 4
- ・自然学クラブ巡検一奥武蔵・関八州見晴台、石老山の奇石群 三木 雄三 p 5
- ・山行記録 p 6~7
 - 鳳凰三山の造形美、南会津の秋 キノコ採りと七つ岳、人骨山とロープワーク
- ・鹿野山古道 山口文嗣 p 8
- ・山行記録 p 8~9
 - 紅葉の奥久慈男体山、子持山は火山ミュージアム
- ・こんにちは 井上優美 p 9
- ・あの日の山 ブルガリアの秀峰ヴィフレン 小疇 尚 p 10
- ・群馬で4支部懇談会 古道を歩く 三田 博 p 11
- ・ウォーキングクラブ活動報告 宇津木 仁典 p 11~13
 - 香取の町「香取神宮・佐原大祭」の道、千葉都市モノレール軌道下の道、関東で一番遅い紅葉の道
- ・支部山行の予定 p 13~16
- ・事務局からのお知らせ p 16

● 会友の期限告知 ●

従来から討議してきた会友の期限について、今回、次のように決まりましたので、本紙面にて告知します。

2023年4月からは全ての会友の期間は2年間とする。(現在入会している会友は2025年3月まで)
 会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらう。なお、70歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。

(年齢は2025年3月末時点とする)

(参考) 会員、準会員、会友の特典

	正会員	準会員	会友
入会金	20,000	5,000	×
会費	12,000	6,000	×
支部会費	1,500	1,500	3,000
会報「山」	○	○	×
山岳	○	有料	×
千葉支部だより	○	○	○
本部講習会	○	○	×
全国支部懇談	○	○	×
総会議決権	○	×	×
支部役員任命	○	×	×
支部山行リーダー	○	△	×
ホームページ閲覧	○	○	○
会員専用ページ	○	○	×
晩餐会出席	○	○	×



JAC会員は、ステータスシンボルであり、世界の山への道が開けることに！

* 青年正会員(26歳未満)は入会金免除、会費6,000円

* 準会員の期間は3年間

(26歳未満の入会金は免除、会費は6,000円)

50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費(正会員1,500円または会友3,000円)を免除します。

国師岳から北奥千丈岳

坂上 光恵

山行日/天候：10月12日（曇り）
参加者：L 今井貴朗、三品京子、柳川しげよ、坂上光恵、
上田慶太（今井さん友人）（5名）
タイム：大弛峠 10：00—前国師岳 11：10—国師岳
11：26（昼食）
北奥千丈岳 12：07—夢の庭園 13：10—
大弛峠 13：35



ブドウ畑を縫うように甲府盆地をぬけ1時間ほどで、車で行ける日本の最高所の大弛峠（2365m）着。ここは金峰山の登山口にもなるので平日とはいえ車が多い。すぐに階段が始まりずーっと50分程続くが、富士山をはじめ山々を眺めて確認したりしているうちに国師岳頂上で昼食。

国師岳から10分ほどで大きな石の多い周辺の最高峰奥北千丈岳（2601m）に到着。

風もなく金峰山の五丈岩、八ヶ岳を見ながらゆっくり2度目の昼食にする。晴天の山もよいが薄曇りの中、山々が雲の上に黒く出ているのはよく山の形がわかる。下山途中の“夢の庭園”は初夏のころが良いとの

こと。

久しぶりにゆったりした山行を楽しむことができ、違う季節に他の山と合わせてまた来てみたいと思った。というのは、帰りの車の渋滞を思うと前泊でこの地域をもう少し歩いてみたいものと思った。

今井さん、上田さん長い時間の安全運転有難うございました。

標高の高い峠

第1位；山梨県と長野県に跨る川上牧丘林道 大弛峠で標高2360mで貫録のトップ 第2位；群馬県と長野県に跨る志賀草津道路 渋峠で標高2152m 第3位；長野県の麦草峠で標高2120m となるが、当然ながら車で行かれる峠としての順位である。因みに、富士山の山梨側富士スバルライン終点の5合目は車で行かれて2304m。更に、静岡県側富士スカイライン終点の新5合目だと2360mとなり、ほぼ大弛峠と同じ標高となる。5合目での標高、さすがに日本一の富士山である。

湿原が広がる田代山

藤木 亥三六

※個人山行

山行日/天候：2022年10月9日（晴れのち曇り）
参加者：L 松田宏也・平野直子・藤木亥三六（3名）
タイム：猿倉登山口（7:40）→田代山湿原（9:30）→
田代山山頂（10:00）→田代山避難小屋（10:30）→
猿倉登山口（12:50）



前日夜に車で出発し、南会津の番屋付近の道の駅で夜を明かした。朝6時過ぎに出発し、猿倉登山口に車を止め、登山を開始。沢沿いの道を登り始めると、視界のない樹林帯の急登がしばらく続いた。紅葉がもう始まっていて、少し色づき始めた木々が綺麗だった。視界が少しずつ開け、急

坂をさらに上っていくと、山頂の田代湿原に到着。山頂は広大な湿原（田代湿原）が広がり、解放感に溢れていた。山頂はガスに覆われ眺望はなかったが、それがまた幻想的な雰囲気であった。木道を進んでいると、高原を散歩している気分が心地よかった。湿原を抜けると、弘法大師堂のある田代山避難小屋に到着。綺麗に整備された設備があり、ここで昼食をとる。風も強くなってきて眺望も望めないのので、帝釈山へは行かず、ピストンで下山。山頂が高山植物で埋まるシーズンにまたゆっくりと散歩をしたい。



● 本部の指導者養成講習会に4名が参加 ●

日時：9月17日～18日

参加者：三田博、三田芳江、小川和敏、今井貴朗（4名）

小諸市で開かれた支部事業委員会主催の指導者養成講習会に参加した。支部山行リーダー育成のためのもので、各支部から20名が参加した。



1日目は、まず初めに長野県警山岳救助隊の石岡優士副隊長の「最近の遭難事故と救助活動に学ぶ」で、実際の救助現場の写真ビデオを使い遭難事例の説明があった。次に齋藤繁群馬大病院長による「登山のための健康トレーニング」。登山時の呼吸法や日常の健康チェックなど実践に役立つ知識を学んだ。最後に川瀬恵一JAC理事による「チームと自己を守るスキル」と題して、翌日の実技に向けたロープワークと、スリングを使った簡易ハーネス作成をおこなった。

2日目は、建物外のフィールドで実技をおこなった。難所を通過するためのトラバースシステム構築や滑落者救助の手順などの講習を受けた。リーダーだけでなくメンバーにも必要な技術と感じた。習った実技は繰り返し練習して、身に付けていきたいと思う。(三田 博)



屋内講習



屋外講習

● ロープワーク ●

安全に関わるロープワークで最も頻繁に使い、最も重要な8の字結び。易しそうなのに、下手をすると止め(固)結びになってしまう。まして、二重8の字結びとなるとなかなか難しい。

基本の結びとしては、ひと結び・ふた結び、もやい結び、巻き結び、テグス結び、本結び、はな結びなど等がありますが、クライミングハーネスに取り付けたりするのに必須なのが8の字結びーエイトノットです。

文字通り写真のように8の字になるような結びですが、その作り方は人によって様々です。自分なりの作り方をしっかりとさせることが何よりも肝心なことかと！日常時でも忘れがちなロープワークなので、緊急時に役立つには本当に自分のものにしていないと駄目だと思われま





自然学クラブ巡検

三木 雄三

●第16回巡検 奥武蔵・関八州見晴台

2022年10月15日(土) 曇りのち晴れ

参加者：新井好夫、宇津木仁典、鎌谷繁、梶田義弘、黒住清美、香高真奈美、塩塚生二、竹園清隆、甘楽敦夫、中場義則・久美、山口文嗣、吉田望、吉永英明、三木雄三(L)。

入間川や高麗川の上流域にあたる丘陵地帯を「奥武蔵」と呼ぶ。地図を広げれば一目瞭然、高さを誇る山はない。しかし、関東ふれあいの道があり、ハイキングに適した人気の伊豆ヶ岳がそびえる。奥武蔵は魅力的だ。

孫の世話などで女性3人がキャンセルしたものの、西武鉄道の西吾野駅には15人が集合した。住宅が増え、登山口が分かりにくくなった。いきなりの急斜面は前夜の雨で濡れ滑る。尾根筋が幅広いのも奥武蔵の地形の特徴。白い石は石灰岩、赤い石はチャートだ。1ミリ積るのに1千年かかる。自然の驚異に驚くばかり。

関八州は標高704メートルの小ピーク。濃いピンクのマユミが咲き、先客がシートを広げ食事中。「お邪魔します」と挨拶。われわれもランチタイム。「関八州」とはよく言ったもので、関東八か国の総称。すなわち相模、武蔵、上野、

下野、安房、上総、下総、そして常陸を指す。雲が消えて素晴らしい展望。ヒガンバナで有名な日和田山がすぐそこだ。二子山も近いが、武甲山は草藪に隠れて見えずじまい。遠くは丹沢で、那須や日光も見えるという＝写真＝。

「丹沢は高い山があるが奥武蔵はなぜ低い…」と鋭い質問。火山島だった丹沢が関東山地に衝突。さらに伊豆も衝突してシワのように山が出来たのに対し、奥武蔵は秩父帯と呼ばれるジュラ紀の地層帯がゆっくりと隆起、高い山は少ない。しかし、日本の地学は秩父帯の研究から始まったといわれ、山の巡検には適した山域。甘楽さんは「丹沢と奥武蔵の成り立ちの違いが分かって楽しかった」と話していた。



●第17回巡検 石老山の奇石群

2022年11月12日(土) 晴れ

参加者：稲川由紀・駿太・薫平、宇津木仁典、鎌谷繁、國宗文、黒住清美、香高真奈美、塩塚生二、高橋琢子、竹園清隆、中場義則、平出正美、廣村恵美子、山口文嗣、吉田望、三木雄三(L)。

今回のテーマは「石老山の奇石群」。『新編相模風土記稿』の石老山の巻に、「武州、相州、甲斐や他の州群におよぶまで祈願した」とある。往時、たくさんの人たちがこの頭鏡寺の奇岩を信仰の対象として拝んだことだろう。

石老山は、海底火山島としてフィリピンプレートにのって北上、700万年前に関東山地に衝突した丹沢山塊の北の端に位置し、衝突の力で山から流されてきた砂や泥、礫がプレート境界のトラフに堆積、これが隆起して出来た山だ。

都内で発生した人身事故の影響で、相模湖駅に集合したのは予定より2時間遅い午前11時。それでも奇石を見ようと参加者の顔は明るく元気いっぱい。

頭鏡寺境内には自然の力が生み出した岩石がたくさん残り、中でも岩小屋のような大きな転石を見学。「寺の屋根みたいに大きい」とみなびっくり。転石とは巨大な岩から離れ流水などで流されてきた岩の事で、登り始めると次から次へと小石を含んだ礫岩やコケの生えた凝灰岩が現れ、写

真を撮ったりメモをしたり…。

尾根に出ると紅葉真っ盛りの生藤山、陣馬山、城山など相模湖対岸の山並みが一望できた。丹沢山塊と関東山地を隔てるプレートの境界が藤ノ木ー愛川構造線として相模湖の地下深くにあることを知り、ここで記念写真をパチリ＝写真＝。

今回の巡検の「よく頑張りました賞」は、テーマに沿って礫岩や凝灰岩をよく予習してきた宇津木仁典さん。松田支部長の著書『足よ手よ、僕はまた登る』をプレゼントされると「まだまだ長生きしてもっと勉強したい」と話していた。



鳳凰三山の造形美

今井 貴朗

※個人山行

山行日/天候：10月21～22日（晴れ）

参加者：L 今井貴朗 三品京子 宮崎美智代（3名）

タイム 1日目；青木鉱泉（10:15）⇒南精進ヶ滝（13:00）
⇒鳳凰小屋（16:10）

2日目；鳳凰小屋（6:15）⇒薬師岳（10:00）⇒御座石（11:30）⇒青木鉱泉（14:45）

青木鉱泉登山口に到着し見上げると青空が一面に広がっている。今日も良い登山になりそうな気配を感じながらドンドコ沢を登り始める。穏やかな登山道をのんびりと歩き深まる秋を全身に感じる。しかし徐々に急登になり汗が一



気に噴き出して来るが、その疲れを癒してくれるのが次々に現れる素晴らしい滝。それぞれ個性豊かな姿を楽しみ、やがて地蔵岳の見事なオ

ベリスクも目前に迫ってくる。程なく無事小屋に着き、疲れが一気に吹き飛ぶ。小屋の営業も10日ほどを残すのみ、辺りの雰囲気も冬に近いことを感じさせる。

2日目は朝食も早々に、地蔵岳オベリスクを目指して一気に登る。頂上近くは滑る砂地急斜面に苦闘しながら、感動すら覚える造形を抱く頂上に到着。皆で登頂の感動を喜び合う。その造形美を目と写真に焼き付け、一休みして観音岳を目指す。稜線縦走の醍醐味を味わいながら、厳しい道を進む。雄大な南アルプスの山々の絶景が疲れをなごませてくれる。

観音岳の頂上から眺める北岳、甲斐駒など3000m級主峰群の迫力は圧巻だ。三山最後の薬師岳で達成感を味わい、名残を惜しみながら下山した。



南会津の秋 キノコ採りと七ヶ岳

三田 博

山行日/天候：10月29日（曇雨）～30日（晴れ）

参加者：L 三田博、三田芳江、三品京子、平野直子（4名）

タイム：黒森沢登山口 8：10→護摩滝 9：10→10：15

七ヶ岳 10：40→下岳登山口 13：15→

黒森沢登山口 13：50

初日は三岩岳に行く予定だったが、車で向かう途中で小雨模様になってきたためアケビ採りに変更する。今回はキノコ&山菜ハンターの平野さんがいるため心強い。桧枝岐の某所でアケビを収穫。アケビは実が落ちた後の柔らかい皮も炒め物や肉詰め



で食べるおいしいとの事。その後は只見でキノコ採り。森に入るとあるわあるわ。普段山を歩いていても気が付かなかったが、キノコを意識するとたくさん見つかるものだ。ムキタケ、ブナハリタケなど教わりながら収穫する。駐車地に戻り、油炒めとキノコ汁を手早く作って試食。これがホント

おいしいとの事。その後は只見でキノコ採り。森に入るとあるわあるわ。普段山を歩いていても気が付かなかったが、キノコを意識するとたくさん見つかるものだ。ムキタケ、ブナハリタケなど教わりながら収穫する。駐車地に戻り、油炒めとキノコ汁を手早く作って試食。これがホント

おいしかった。新たな山の楽しみ方を教わったが、素人には毒キノコと見分けがつかず危険かも。

その晩は、南会津の民宿泊。赤いお湯の古町温泉で温まった後、キノコや伊南川で釣れたアユなどの山人料理でお酒が進む。全国旅行支援も使い格安でした。

翌日は黒森沢から七ヶ岳に登山。紅葉もちょうど盛りで落ち葉を踏み歩く。三段30mの護摩滝を登るのだが、固定ロープもあり難しくはない。一等三角点のある山頂からの見晴らしは良く、眼下には紅葉の森が広がる。下山は頂上の七ヶ岳（一番岳）から下岳（七番岳）までアップダウンの繰り返し、三番岳への登り返しが少しくつかった。分岐の針生下降点から急勾配の道を下り、紅葉の中、40分の林道歩きで駐車した登山口に戻ることができた。



人骨山とロープワーク

三品 京子



山行日/天候：11月3日（晴れ）

参加者：L 三田博、三田芳江、小川和敏、宮崎美智代、三品京子（5名）

タイム：人骨山登山口 9:30→山頂 10:00→房総 Base 12:30



今回の山行は山頂の整備と言う事で鎌や鋸・枝切りばさみをザックに入れ登山開始。田んぼのあぜ道を通り、ちょっとだけ急な斜面を登ると 30 分で山頂に到着。富士山が見える。

事前の話では藪だらけのはずが、綺麗に草刈りされて

いた。地元の方たちが草刈をしてくれたようだ。刈り残しの草や枝切りをして、リーダー作の山頂標識を取り付け作業終了。帰りは周回コースを進むと藪が登山道を塞ぎ持参した鎌がこんなところで役に立つ。イノシシに荒らされた登山道でヤマビルの攻撃をしのぎ昼過ぎに房総 Base に到着。

昼食を済ませ、午後はツェルトとロープワークの講習。いつも山へ持って行くが未使用のツェルトの張り方を教わり、これで緊急時も安心。次にロープワークの勉強で、エイトノット・クローブヒッチ・・・何度も教わっているが忘れてしまっている。たまにはロープを出して復習しなくてはと、最後は反省して一日が終わりました。



房総 Base でのツェルト、ロープワークの練習

三田事務局長に講師となってもらい、人骨山山行の後にツェルトとロープワークについて実地勉強をした。

まずはツェルトから。幸いなことに、エマーゼンシーケースに使ったことが無いので、一人用のエマーゼンシーは出来るのだが、テント的に設えるのはなかなか手間がかかってしまう。ポールを使う方法や、近くの立木状のものを使う方法などを練習した。ここでも、ロープワークが要となる。

続いては、エイトノットほかの主要なロープワークの練習に。カラビナも含めたもので、まずは、120cmほどのスリングで作る簡易ハーネス、そして、セルフビレイの取り方等をワイワイ言いながら・・・それにしても、ロープワークはちょっとしたことで成立しなくなる。少しの手のひねりを間違えともうダメ。靴の紐を結ぶように簡単にできるためには、やはり、毎日のように繰り返して実際に手を動かすことしかないようです。毎回教えてもらうたびに、いつもいつも、文字通り「習うより慣れる」だと痛感します。

もやい結びは、支柱などでロープ端に輪を作る代表的な結びで「キング・オブ・ノット」とも呼ばれる・・・他にも、てこ結び、ねじ結び、ふた結びなど等数種類がありますが、どれか一つを得意技にすべきだと思います。先のエイトノットの作り方と同じように、この結びだけは誰にも負けないといった状況に！

ロープの材質の種類としては、ナイロンロープ、ビニロンロープなどの化学繊維ロープと、木綿ロープ、マニラロープなどの天然繊維ロープがあります。化学繊維ロープのナイロンロープ・ビニロンロープは強度・耐久性・耐水性・柔軟性などに優れるので、登山・キャンプが主な用途となっています。（小川 和敏）



● 鹿野山古道 ●

● 第6回 日時；11月5日 参加者6名

今回は鹿野山の東から南東側の久留里、栗倉、三島方面の人たちが鹿野山参拝に使っていたと思われる東側の道を探索した。

といっても昔の道がそのまま残っている訳ではない。特に鹿野山の北東側は砂採りのため大幅に削り取られてしまって昔の道の痕跡を探すのは困難である。また栗倉から鹿野山に登る県道93号は新しく作られた車道のため、今回は栗倉の秋元城址から登って、秋元浅間山を通り鹿野山に至るルートを探索することにした。

秋元城址は10年以上前は草茫々に荒れていたが、昨今の古城ブームのせいか、きれいに刈り払いがされていて、案内板等も整備されていた。

秋元城址から多少ヤブっぽい急登を登ると、古い石塔のある秋元浅間山に着く。

浅間山からは緩やかな道となり、県道に合流する直前には芭蕉の句碑がある。案内板によると元々この碑は現在地の150mほど北の清和市場からの参道と市宿からの参道の合流点にあった、ということなので、昔は参拝道があったことが伺える。

一旦県道をちょっと下り、再びさくらの広場に通じる山道に入り、九十九谷展望公園に向かった。

(山口 文嗣)



紅葉の奥久慈男体山

宮崎 美智代



山行日/天候 11月12日(曇り時々晴れ)

参加者：CL 三田芳江、SL 三田博、今井貴朗、三品京子、宮崎美智代 (5名)

タイム：大円地集落 P8:00→奥久慈男体山 9:40→大円地越 10:10→鷹取岩 12:00→大円地集落 P12:45



紅葉の時期、渋滞回避のため市原を5時に出発。スムーズに目的地に着くが駐車場は満車、近くの路肩に素早く駐車したが登山準備をする内に空きスペースは埋まっていった。

今日は健脚コースを進む。

登山開始後まもなく急登が始まり岩場には鎖やロープの連続。途中開けた一角で小休止。奥久慈の紅葉と雲海の絶景に感動しつつ、また足場を確保しながら頂上を目指す。主稜線に出た所の東屋でもう一度

休憩。山頂までは後ひと登り。まず断崖絶壁に立つ男体神

社奥宮が現れ更なる高みに奥久慈男体山の山頂。山頂での絶景に感動の中、三品さんのお知り合いに会うハプニング。合流し一緒に下山する事に。

大円地越への下り始めは急斜面だったが傾斜が緩んでくると、樺や楓による紅葉の見事な共演に右側は切れ落ちる崖だという事を忘れるほど。入道岩で昼食とリーダー特製のデザートを堪能。締めくくりの鷹取岩に登頂し奥久慈男体山をバックに集合写真を撮った。最後まで岩場と鎖場を楽しみ大円地Pへ戻った。654mの低山とは思えぬ荒々しい岩峰と豊かな樹林の紅葉にまた登りたいと思った。



子持山は火山ミュージアム

齋藤 米造



山行日/天候：11月19日（晴）
 参加者：CL小川和敏、SL三品京子、三田芳江、
 宮崎美智代、齋藤米造（5名）
 タイム：7号橋登山口 9：30→獅子岩 11：00→柳木ヶ峯
 12：25→子持山 13：05 大ダルミ→7号橋登山口
 14：30



子持山は地球の内部が露出した、まるで火山ミュージアム。登山口にいきなり屏風岩と呼ばれる岩脈が聳える。涸れ沢を40分詰めて展望岩へ。ここから100mの大岩

壁、獅子岩が展望できた。4人のクライマーが取りついて

いる。獅子岩はマグマが通り道の火道に詰まって凝固し、露出した岩頸という円筒形の巨大な岩塔だ。山中のあちこちの岩塔に「ローソク岩」「タケノコ岩」などと勝手に命名して楽しんだ。

獅子岩の基部にザックをデポして、梯子と鎖を使い岩頭に出た。上越の山々を展望してから、柳木ヶ峯へ。子持山まであとわずかだが、ここで昼食。頂上手前の急なロープの壁を越えて山頂へ出た。枯葉がすっかり落ちた枝の間から、冠雪した谷川、日光連山と、雄大な裾野を広げる赤城山が展望できた。

下山は柳木ヶ峯から大ダルミを経由して登山口まで85分、1本で下りきった。



♪ こんにちは ♪



はじめまして、千葉市在住の井上優美と申します。この度、千葉支部に入会させていただくことになりました。山岳会に入会したのは2015年で、入会と同時に図書委員会に所属しており、そこで松田支部長にお声がけいただきました。



私が山を始めたのは20代後半で、一冊の本がきっかけでした。「Pole to Pole 2000」という世界中から集まった若者が

人力だけで北極から南極へ縦断するプロジェクトに参加された石川直樹さんの『この地球を受け継ぐ者へ』という本です。この本に限らず、石川さんはザックに本を詰め込んで世界中を旅しており、その中に植村直己さんや小西正継さんなど山の本が紹介されていました。いくつか読んでみて、こんなに楽しそうなら、と山に行ってみたくなったのです。

友人と高尾山ハイキングから始めて、大好きな八ヶ岳を中心に、足を延ばしてアルプスへ。山小屋を使った無雪期の山行が中心です。山に登るとまた違う山を発見したり、人に聞いたりして、次々と登りたい山が見つかりました。印象に残る山は、登るに従い植生が見事に变化する宮

之浦岳や、不安になるほど広がりのある大雪山、深く静かな飯豊山、苔の美しい北八ヶ岳など。30代中頃にはヨセミテでのクライミングに誘われたことがきっかけで、高所恐怖症にもかかわらずクライミングに挑戦し、ハーフトームやアイガー、国内では前穂北尾根や一ノ倉沢、明星山など岩登りにも触れました。



出産を機に山登りをする機会が減ってしまい、40代中頃となった現在は関東近郊のファミリー登山が中心です。本から始まった私の山で



すが、山には心の一部を置いてきているようで、いつか行きたい山のリストから山が減ることはありません。今は特に、信越トレイルなど日本のブナの森を巡る山旅をしてみたいです。房総Baseという素晴らしい基地のある千葉支部のみなさまと、楽しく山のおはなしができることを心待ちにしております。どうぞ、よろしく願いいたします。

あ の 日 の 山



ブルガリアの秀峰ヴィフレン (2914m)

小嶋 尚

旧東欧圏諸国が西側に門戸を開いて十年が経ち、当初の混乱も収まっただろうと、ブルガリアからモンブラン山塊までヨーロッパ中南部の山地を2か月で巡る計画を立て、情報のほとんどない東欧の山も行けば何とかなるだろうと出かけた。



最初に目指したのはブルガリア第二の高峰ヴィフレンで、山麓の町バンスコへは首都ソフィアから列車とバスを乗り継いで昼過ぎに着いた。町一番のホテルに宿をとり、ソフィアで買った登山地図で海拔 2000m の山小屋まで車道があると分かり、フロントで翌日のタクシーを手配してもらう。

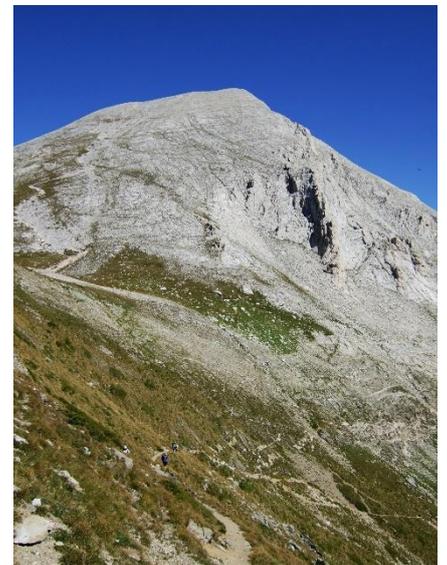
翌朝、タクシーで山小屋まで行き、午後4時に迎えに来るように頼む。ドライバーが料金はその時でいいよと言いながら、小屋にあった空のペットボトルに水を入れて差し出してくれる。そして身支度を終えたころ、中肉中背の男性を指して彼の後をついて行けと言う。言葉もわからぬ異邦人を気遣って、連れになれる人を小屋で探してくれたのであろう。おかげでルート確認の必要もなく、先行パーティと間をあけて同じペースで休まずに歩く、ロシア語



とフランス語ができるが英語はダメな彼について黙々と登る。氷蝕谷の急登が終わってカールに入ると、白い大理石の岩峰が間近に迫ってきた。岩壁下の崖錐を斜登して尾根に出たところが、反対側のカールへ下る道と主脈の縦走路が交わる鞍部で、そこから頂上へは大理石の大斜面に伸びる一直線の縦走路を登る。雲が沸いて展望が利かなくな

って間もなく、登山口から3時間弱で頂上に立った。先着パーティの女性が私に英語で、「この先、急峻な主稜を行くと右に分れる尾根を下るルートがあるが、初めての人はやめたほうが良いと思うよ」と言って霧の大斜面を下って行った。それを伝えるために何も見えない頂上で私の到着を待っていたのであろう。その心遣いが嬉しかった。

岩の大斜面を下り雲から抜け出したところで、登りのパーティと行き会って道を譲ると、ザックからアンテナが突き出た男性がいきなり英語で「何県から？」と聞くので驚いて「千葉県」と答えると、「家は空港の近くか？自分はアマチュア無線で日本と3千回ほど交信していて、山梨県の山口さんとはよく話す。日本語で一から百まで数えられるよ、歴代の横綱の名前も知っているぞ」と言ってイチ、ニイ、サンと唱え始めたのには驚き入った。



午後1時半に小屋着。迎えの車まで時間があるので、先導してくれた男性がハイマツに囲まれた氷河湖の散策に誘ってくれた。登山中は口が重かったが片言と筆談で、彼は44歳、スイスのコンクリート工場に勤めていて、25日間のバカンスで帰郷し、今日は10日間の縦走の中日で明日この小屋で合流する予定の仲間を待っているところだと分かった。

ホテルに戻って、サウナで汗を流し室内プールでひと泳ぎしてビールで喉を潤し、郷土料理のフルコースとワインで東欧の山の初登頂を一人で祝った。ちなみに経費は円換算でホテル2泊3,700円、フルコース料理700円、タクシー往復1,500円。

初めての東欧の山での心温まる純朴な人々との出会いとこの廉価が、その後十年余り続けた東欧通いの契機になり、数年後この山にも仲間を誘って再登頂した。

● 群馬で4支部懇談会 古道を歩く ●

コロナで2年ぶりに開催した4支部懇談会が、11月26日、27日に群馬支部主催で行われた。

千葉からは7名が参加した。参加者：松田宏也、三田博、三田芳江、節田重節、坂上光恵、三品京子、中場義則



初日は高崎市内の会場で、群馬県林業試験場職員の坂庭浩之さんの講演を聞いた。増えすぎたシカ、広範囲に広がりつつあるヤマビル、危険なマダニの生態など、どれも登山者に興味のある話だった。宿泊ホテルに移動した後は、恒例の懇親会。各支部の取り組みなど発表があった。アトラクションとして、アコーディオン奏者の椎名ひとみさんの歌と演奏。「雪山賛歌」「谷川小唄」など山の歌をみんなで合唱、盛り上がりました。

2日目の懇親山行では、榛名神社から天神峠を越えて榛名湖へ向かう古道を歩いた。紅葉も終わり、すっかり明るくなった山道を参加者はのんびり歩いた。ゴールの榛名湖では、群馬支部の方たちが温かい豚汁とおにぎりを用意してくれていた。コロナ禍でいろいろ準備が大変だったと思います。群馬支部の皆さん、お疲れさまでした。(三田 博)



ほかの3支部の概要 (各支部のHPより)

群馬支部・・・2013年設立。会員60名ほど。

支部としての行事は隔月(奇数月)開催の例会と2021年度からは毎月行う支部山行が柱です。

また公益的な事業として、毎年夏の「山フェスタ」や「山の日イベント in 谷川岳」などにも主催団体の一つとして積極的に参加し、その運営に携わっています。

栃木支部・・・2007年設立。会員50名ほど。

アルパインクラブとしての本支部の活動は、四季折々の支部山行をはじめとする自立した「登山」や、山岳文化発展のための各種講演会などを主体的に行っています。また、次代を担う若者に「登山」を通して自然と共生する真の「生きる力」を養うため、学習院山桜会の支援で実施している「親子登山教室」は本支部の重要な公益事業です。

茨城支部・・・2007年設立。会員30名ほど。

ほぼ隔月の講演会および山行を中心に意欲的にクラブライフを盛り上げて来ている。

当支部はとくに公益性の高い自閉症者への登山支援などを中心に努めて来ている。

※参考(千葉支部・・・2007年設立 会員90名ほど。)

ウォーキングクラブ報告

宇津木 仁典

● 香取の町「香取神宮・佐原大祭『秋祭り』」の道

NO.7 10月8日(土) 晴れ

参加者；L宇津木仁典、塩塚生二、岩尾富士夫、高橋正彦、平出正美、竹園清孝、梶田義弘、梶田天兵、黒住清美 (9名)



日本山岳会千葉支部

計画実施日が降雨になり延期していた7月実施計画「小江戸の風情、夏の大祭と香取神宮ウォーキング」について、この日、香取市では秋の大祭が開かれたので香取市内のウォーキングを実施することになった。「祭り」見物が目標ではない！！健康増進のためにウォーキングに励み有酸素運動である。今日は歩行距離14,5km、歩数22,500歩、消費カロリー約620kcalであった。少々貯筋もできた。

ウォーキングを顧みると佐原駅前に10時30分に集合した9名は、同駅前では大人形と彫り物が豪華な「山車」と佐原囃子にあわせて若者が踊る「手踊り」を少々観ながらスタートした。コースは佐原駅⇒伊能忠敬銅像⇒諏訪神社⇒忠敬橋⇒八坂神社⇒山車会館⇒香取神宮⇒昼食⇒観福寺(日本三大厄除寺)⇒伝統的建造物群保存地区⇒伊能忠敬記念館が主な経路地である。小野川沿いでは建造物群保存地区の建造物及び史跡を観て、風情を楽しみ歩行していると、祭りの佐原囃しの笛太鼓の音が高く鳴り響き、山車13台がそれぞれ地区名入りの提灯を掲げて路上に並び、その周辺は沢山人々で身動きできない程で夕暮れ時の秋祭りは高揚していた。

歩行の主要コース「佐原駅前⇒香取神宮」間の往復距離約11kmは、あきてしまうほど変化のない道路であったが香取の杜を訪れて自然とふれあうひとときの休息ができて、有酸素運動の効果があつたことだろう。



● 千葉都市モノレール軌道下の道

NO.8 10月23日(日) 晴れ

参加者 ; L 宇津木仁典、塩塚生二、岩尾富士夫、高橋正彦、平出正美、竹園清孝、國宗文、黒住清美、小林義亮 (9名)

懸垂型モノレール軌道距離世界最長15.2kmは、ギネス認定である。今日のウォーキングでは、途中寄り道周回したこともあって、歩行距離は20km超、歩数は3万歩超であり、今までのウォーキングでは最長距離(歩数)であり、充実したウォーキングになった。

スタート地(千葉みなと駅)には9人が集まり、誰かが「歩いて乗車運賃520円を節約しよう」と声がかかりがあって、スタートした。ウォーキング途中では沿線近くの千葉公園、県スポーツセンター及び加曾利貝塚等に寄り、周回したので長距離の一因にもなった。私事で恐縮だが、主要な交通機関であり、モノレール乗車は時間27分である。モノレール沿線沿いに居を構えて40年余、いつかは「軌道全線下を歩いてみよう」と思いつつも一人歩きは実現しなかった。今回の「軌道下ウォーキング」実施では、ウォーキング仲間を道連れにして、ようやく軌道下を歩くことが実現した。ウォーキング仲間には感謝である。過ぎ去ったある年にウォーキング仲間が、このモノレール軌道を見たときは「疲れた！ウォーキングであった！！」ことを思いだすことだろう。



● 関東で一番遅い紅葉の道

NO.9 11月27日(日) 快晴

参加者 ; L 宇津木仁典、塩塚生二、鎌谷繁、竹園清孝、新井好夫、梶田義弘、長谷川博、平出正美、國宗文、黒住清美、高橋啄子、稲川由紀、稲川薫平、稲川駿太、内田真理
参加者 (15名)

養老溪谷の紅葉と溪谷を楽しみに計画実施は、山と高原地図「三浦・房総」からコース選定した。小湊鉄道・大久保駅⇒「新緑、紅葉の美しい『道』」⇒大福山頂⇒梅ヶ瀬溪谷⇒小湊鉄道・養老溪谷『トロッコ電車』まで、歩行総距離約12,5kmであった。

大久保駅に集まった15名は、ウォーキング靴から登山靴に変身して9:20スタートした。「新緑、紅葉の美しい道」は、紅葉最盛期であり日差しがよく当たる場所と日陰で紅葉の彩が変わり、しばしば心を満たした。コースは市原市の最高峰(大福山頂292m)に登頂へ進み、白鳥神社に祈願後、いよいよ梅ヶ瀬溪谷に向かうコースだ。前日が雨によって下りの滑降路には、用心！用心！誰かが「危険なトレッキングコースだ！」叫んでいた。慎重に一歩一歩「山岳登山経験=登山靴」が多



日本山岳会千葉支部

少の効があつてか、無事に約40分ほど歩いて「梅ヶ瀬溪谷」に到着した。梅ヶ瀬溪谷は、養老川支流の溪谷であり、川幅4～4.5mの溪谷の両岸には高さ30～50mの浸食崖が続いていた。もみじ、クヌギ、カエデ、ナラ、等たくさん種類の美しい紅葉が迎えてくれた。

先ずは、日高邸跡(九州高鍋藩(宮崎県)出身の教育者、日高誠実がここで暮らしていた屋敷跡)では、紅葉じゅうたんが素晴らしい!皆が一声。ホームページ用に、じゅうたん上で皆揃って写真撮影。ここから渡渉と浸食崖上の紅葉を幾度も眺めて歩くこと約1時間、溪谷歩きを満喫した。あとは養老溪谷駅まで標示板は40分を示していた。同駅でトロッコ指定席乗車までに多少のゆとり時間を考慮してか、心残りの紅葉路は速足歩きとなった。「好天のもと皆様と晩秋の養老溪谷をたっぷり楽しむことが出来て嬉しかった。溪流の中に立ち見上げた白い崖と青空に映える紅葉のグラデーションは美しかった」……メール着信があった。

この計画実施では、世話人として教訓事項があった。

その一つは、参加者から事前申告がなかったなら、計画書記載の五井駅養老溪谷駅行きには乗車できなかった。参加者の申告は重要である。

その原因は、電車利用の経路及び時間調べは、本年2月世話人になって以来「乗り継ぎソフト」を使用して乗り継ぎ時間を実施計画策定していたが、いままで齟齬がなかったので今回の計画も同様ソフトを使用して策定した。ところが「小湊鉄道時刻」が本年4月1日付けで改正になっていたことに気づかなかったことが原因であった。

二つ目は「トロッコ電車」は展望車(窓無し開放車)及び暖房車の各二両編成であるが、小生のみ「展望車」を経験した。ところが展望車は窓無しで開放され寒風があつて「寒冷車?」であった。養老溪谷発16:05発⇒五井駅着17:56は、寒冷のなかで長い時間を耐えて、良い経験をした。

支部山行の予定



- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

- 山行の申込み
申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策 : 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められたルールに従うようにしましょう。

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	紙面の支部日より参照
松田宏也	
三木雄三	
三田 博	
三田 芳江	
藤木亥三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美智代	

《難度》

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (1月~6月)

日 程	山 名	難 度	備 考	リ-ダー	締 切
1月7日(土)~8日	登山道の調査・整備 (嗟峨山)	B	房総 Base で新年会(定員 10名)	松田	締め切り
1月8日(日)	伊予が岳 (東尾根)	C	登山口に「熟達者向き」と書いてあります	三田	締め切り
1月11日(水)	丹沢鍋割山	B	今年初めての富士山を見る	松田	1月5日(木)
1月14日(土)	房総・三郡山	B	高宕山近く 3郡(天羽・君津・安房)の境界	小川	1月5日(木)
1月20日(金)~21日	安達太良山	D	雪山・くろがね小屋に宿泊	三田	12月1日(木)
1月21日(土)	高尾山6号路	B	自然学：初詣を兼ねて断層を歩く	三木	1月14日(土)
1月22日(日)	鋸山 (ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会 2年目までの人対象	三田	1月10日(火)
1月22日(日)	大野山	B	富士山を眺めながらのんびりハイキング電車利用 (JR 御殿場線谷峨駅)	今井	1月9日(月)
1月26日(木)	明治神宮と周辺	W	都心に広がる緑の杜	宇津木	1月19日(木)
2月4日(土)~5日	登山道の調査・整備 (嗟峨山)	B	房総 Base 泊 (定員 10名)	松田	1月25日(水)
2月5日(日)	花嫁街道	B	花嫁街道から花婿街道へ	三品	1月23日(月)
2月10日(金)~12日	山形蔵王スキー		ロッジおよび山形山岳会山小舎泊	松田	1月27日(金)
2月11日(土)	大岳山	C	御岳から奥多摩までの日帰り縦走、岩場少々有。頂上からは富士山展望。	今井	2月1日(水)
2月14日(火)	浜石岳 (静岡)	B	前泊 由比駅から周回	小川	1月15日(日)
2月18日(土)	富津・高宕川	C	秘境の沢を歩いて高宕山へ	三田	2月11日(土)
2月23日(木)	千倉海岸周辺	W	早春の花摘みと潮の香	宇津木	2月16日(木)
2月25日(土)	湯河原・幕山	B	電車で「梅の宴」へ	三田芳	2月11日(土)
3月4日(土)	房の大山	B	千葉洲崎海岸 0mから登る 194mの低山、のんびりハイキング	今井	2月23日(木)
3月4日(土)	金時山	B	自然学：カルデラ地形を学ぶ	三木	2月25日(土)
3月11日(土)~12日	登山道の調査・整備 (三石山)	B	房総 Base で頼朝桜を見る会 (定員 10名)	松田	2月28日(火)
3月17日(金)~18日	妙義山中間道	B	前泊 日本三大奇景の中腹を歩く	小川	2月15日(水)
3月18日(土)	茂原地区ウォーキング	W	茂原地区「花卉栽培と茂原公園」を巡る	宇津木	3月11日(土)

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
3月21日(火)	ミツバ岳と権現山	C	ミツマタを見に西丹沢へ	三田	3月14日(火)
3月26日(日)	船橋アンデルセン公園周辺	W	花と緑の観察スポット	宇津木	3月19日(日)
3月29日(水)	平日山行 鎌倉アルプス	A	桜を愛でて寺で頭を垂れる	松田	3月22日(水)
4月3日(月)	生瀬富士	C	天使がいる茨城のジャンダルム、クルマ使用	三田芳	3月18日(土)
4月4日(火)	常盤平・清水公園	W	ふさのくに花見ウォーキング	宇津木	3月28日(火)
4月8日(土)	足尾・中倉山	C	銅親水公園からピストン、クルマ使用	三田	3月25日(土)
4月15日(土)	御岳山ロックガーデン	A	自然学：山上の「谷」の謎	三木	4月8日(土)
4月15日(土)	掃部ヶ岳	B	榛名の絶景を楽しむ	今井	4月2日(日)
4月15日(土)	大岳山	B	奥多摩駅から鋸尾根を登り白倉へ下りる	小川	4月5日(水)
4月22日(土)	筑波山	B	電車で新緑とカタクリの花を見に	宮崎	4月14日(土)
4月23日(日)	房総・富山(ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人対象	三田	4月9日(日)
5月7日(日)	支部総会				
5月13日(土)~14日	奥秩父・鎌倉沢	C	沢から南天山に登る(テント前泊)	三田	4月30日(木)
5月13日(土)	君津・三舟山	A	自然学：ケスタ地形とヤマツツジ	三木	5月6日(土)
5月19日(金)~21日	立山	D	北アの大展望、岩と雪のミックス	三田	4月1日(土)
5月21日(日)	浦安地区ウォーキング	W	夢と魔法の町の周辺を歩きます	宇津木	5月14日(日)
5月28日(日)	乾徳山	C	変化に富んだ登山道、岩場あり	今井	5月17日(水)
6月2日(金)~3日	太郎山	B	男体山の北西	小川	4月25日(火)
6月10日(土)	市原地区ウォーキング	W	歩いて古代の歴史を学ぶ	宇津木	6月3日(土)
6月10日(土)~11日	奥日光・沢ハイク	C	酒と野宿と焚火を楽しむ	三田	5月31日(水)
6月11日(日)	金峰山	C	信仰の山、五丈岩を目指して	今井	6月3日(土)
6月16日(金)~17日	霞沢岳	C	徳本峠からチャレンジ	小川	5月15日(月)
6月17日(土)	日本山岳会総会				
6月17日(土)~18日	平標山	C	平標山から仙ノ倉山へ 前泊	三品	5月8日(月)
6月23日(金)~24日	浅草岳	C	六十里越ルートでヒメサユリを見に行く	三田	5月20日(土)

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
7月9日(日)	奥多摩 (ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人対象	三田	
8月18日(金)~19日	和名倉山	C	テント泊で奥秩父の二百名山へ	小川	7月20日(木)
10月22日(日)	景信山 (ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人対象	三田	

※ W;ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

お知らせ

《事務局から》



●遭難対策金について

山行の参加者がリーダーに支払う遭難対策金(200円)は、遭難事故などの緊急時のために支部で積み立てられており、救助のための支援や安全対策に使用されます。山行の保険料や山行経費などには使われておりませんので、誤解されないようお願いいたします。

●役員会報告

- 9月報告 9月21日(火) リモート(松田、三田、山口、小川、宇津木、三品、上村、今井、山本、甘楽)
 ◇山行・行事報告 7/23 富士山5合目、7/30~31 東黒沢、8/4~7 奥穂高、8/20 富士山昔道、8/26 西丹沢三ノ沢、9/3 入笠山、9/17~18 登山指導者講習会
 ◇山行行事予定 いすみW、西吾妻山、群馬・尾瀬合宿、和名倉山など
 ◇報告・検討事項 山の日講演会の報告、初級登山教室、会友制度改革、入退会者報告ほか
 ○10月報告 10月26日(水) リモート(松田、三田、小川、宇津木、山本、今井、山口、三品)
 ◇山行・行事報告 9/24~25 西吾妻山、10/1~2 尾瀬合宿、10/9~10 田代山、10/10 佐原W、10/12 国師・北奥千丈、10/15 関八州見晴台、10/23 モノレール下W
 ◇山行行事予定 七ヶ岳、人骨山、鹿野山古道、檜洞丸など
 ◇報告・検討事項 初級登山教室、会友制度改革、忘年山行ほか
 ○11月報告 11月16日(水) ヨシキYYルーム(松田、三田、小川、山本、宇津木、上村)
 ◇山行・行事報告 10/29~30 七ヶ岳、11/3 人骨山、11/4 檜洞丸、11/5 鹿野山古道、11/12 石老山、11/12 奥久慈男体山
 ◇山行行事予定 子持山、笹郷山、4支部懇談会、養老溪谷W、扇山など
 ◇報告・検討事項 初級登山教室、晩餐会・晩餐会山行、忘年山行、支部カレンダー配布ほか

●会員・会友の動向(会員92名・会友48名)

《入会・会員》

Y・Fさん(会員申請中) 柏市

《入会・会友》

H・Hさん 八千代市



編集後記;新しい年を迎えて、引き続き、賢くコロナを防御しつつ山行が楽しめればと切に思います。因みに、今年の干支は🐉で年男です。昨年晩秋に「四国で一番厳しい」と謂われる石立山に別府峡側から登ってみました。さすがに、登りにくい砂利の多い登山道から岩稜登り、岩のヤセ尾根が続き、かなりの手ごたえでした。いつまでこのようなチャレンジが出来るのでしょうか??
 津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思ひます。会員になると割引があります。(小川和敏)